

新しい教科書の「問いの構造」

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返りページ

新しい教科書では、**問いを構造化**することで**内容のまとめりでの授業**がしやすくなっています。各時間の「学習課題」を積み重ねて「節の問い」や「編(章)の問い」を解決する構造になっています。教科書の問いに沿って授業を進めていくことで、**主体的・対話的で深い学びを実現**することができます。

単元を貫く問いを立てる

導入ページで、単元を通して追究していく「単元を貫く問い」(「編(章)の問い」や「節の問い」)を立てます。



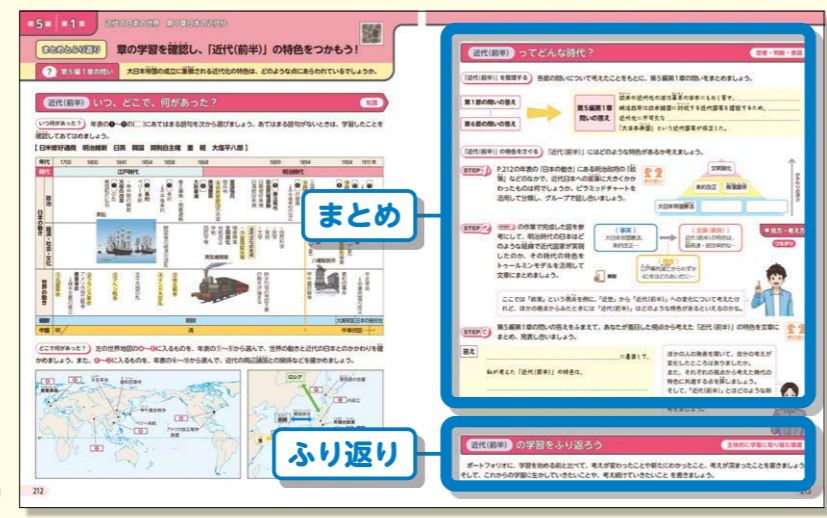
学習課題を追究する

導入ページで立てた問いの解決に向けて、本文ページに設定した各時間の「学習課題」と、それに対応した「確認」「表現」の問いに答えます。



単元を貫く問いを解決し、ふり返る

学んだことをまとめ、「節の問い」について考えたことを手掛かりに「編(章)の問い」を解決します。最後に単元の学習をふり返り、次の単元へ進みます。



第5編第1章 日本の近代化

第5編第1章の問い

大日本帝国の成立に象徴される近代化の特色は、どのような点にあらわれているでしょうか。

第1節の問い 第2節の問い 第3節の問い …

注目! 「単元を貫く問い」で、授業をデザインする

内容や時間のまとめりにより構成された授業をデザインすることで、主体的・対話的で深い学びを実現できます。

第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き

第5節の問い 条約改正、日清・日露戦争は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

1 列強の動向とアジア

学習課題 なぜ、日本はこの時期に条約改正を実現することができたのでしょうか。

確認 日本にとって不平等条約の改正が必要だった理由について、確認しましょう。

表現 憲法の制定など近代国家としての制度の整備や当時の世界情勢が、条約改正とどのように結びついたかを説明しましょう。

2 朝鮮をめぐる対立

学習課題 日清戦争はなぜ起こり、その結果、日本はどのように変わっていったのでしょうか。

確認 日清戦争の結果は、日本・清・朝鮮・ロシアにどのような影響をあたえたのかを整理しましょう。

表現 日清戦争の結果、どのようなことが起こったか、国際関係と国内の動きから説明しましょう。

3 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立

学習課題 日露戦争は、なぜ起こり、その結果は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

確認 日露戦争のきっかけについて、日本とロシアの動きを確認しましょう。

表現 日露戦争の結果、どのような影響があったのか、対外関係と国内に着目して説明しましょう。

第5節の問いに答えよう 日清・日露戦争前後の日本の国際的な地位の変化や動きに着目しましょう。

「近代(前半)」を整理する

第1節の問いの答え
第6節の問いの答え

第5編第1章の問い

大日本帝国の成立に象徴される近代化の特色は、どのような点にあらわれているでしょうか。

注目! 時代の特色を考察する

「編(章)の問い」で答えたことを踏まえて、学習してきた時代の特色を、視点を定めて考察する活動をします。

「近代(前半)」の特色をさぐる

「近代(前半)」にはどのような特色があるか考えましょう。

近代(前半)の学習をふり返ろう

主体的に学習に取り組む態度

ポートフォリオに、学習を始める前と比べて、考えが変わったことや新たにわかったこと、考えが深まったことを書きましょう。そして、これからの学習や生活に生かしていきたいことや、考え続けていきたいことを書きましょう。

問いを立て、学習を見通す導入ページ

導入ページでは、各時代の人々や社会の様子を示す資料を生徒が主体的に読み取り、それをもとに話し合う協働的な学びを通して、「編(章)の問い」を立てる活動を提案しています。また、立てた問いの答えを予想することをうながして、その後の学習の見通しをもつことができるようになっています。

第2～6編 各時代の学習

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返りページ

第5編 第1章 近代の日本と世界 日本の近代化

学習のはじめに 江戸と東京を比べよう

気づいたことを出し合おう

気づいたことを出し合おう

年表と地図を読み取る

第5編第1章「日本の近代化」の動き

気づいたことを出し合おう

気づいたことを出し合おう

1 どんな学習をするのかな？

小学校の既習内容を確認するとともに、この時代の学習で何ができるようにになればよいかを説明します。

2 気づいたことを出し合おう

前後の時代を代表する資料を比較して、特徴やちがいなどを読み取り、これから学ぶ時代のイメージをつかみます。

3 気づいたことを出し合おう

年表と世界地図を読み取り、時代を時間軸で概観したり、日本と世界とのつながりを空間軸で確認したりします。

4 第○編(章)の問いを立てよう

②、③の活動を通して出てきた意見や疑問を踏まえて、編(章)や節で追究していく問いを立てます。

5 学習の見通しをもとう

編(章)の問いに対する疑問や答えの予想をポートフォリオに書きこみ、これからの学習を見通します。

生徒は原始・古代～現代までの各時代でこうした学習を繰り返していきます。

資料の活用や、話し合いなどの活動から、深く学んでいけそうだね。



見方・考え方を働かせる

「トライ」で資料を読み取る一連の活動では、見方・考え方を働かせた着目点を示して、生徒の活動を支援します。



ポートフォリオ

学習の見通しとふり返りの活動に役立つポートフォリオのデータを教科書QRコンテンツとしてご用意しています。



指導と評価の一体化

主体的に学習に取り組む態度

⑤の活動を行い、単元の学習後に改めて自分の考えを書きこむことで、生徒が学習の見通しを立て、学習後に自分の考えの変容をふり返ったり、教師の授業改善につなげたりできるようにしました。主体的に学習に取り組む態度の評価もできます。

1 指導と評価の計画に基づいた教科書

授業や生徒の思考の流れを重視した構成

①指導と評価

②デジタルへの対応

③主権者の育成

④わくわくする教科書

学習上の配慮

分野・教科間連携

地域事例

資料編

本文は原則1授業時間を見開き2ページとし、この1時間で何を学ぶのか、どのようなことに着目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で明確に示しました。また、右ページの側注欄には学習課題に対応した「確認」「表現」コーナーを設け、「編(章)の問い」や「節の問い」に答えるための手がかりとなるように工夫しています。

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返しページ

1 導入資料

本文ページの導入になる資料と、それに関する問いかけを設けています。

関心と意欲を引き出す

2

学習課題

本文ページで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めていきます。

学習に見通しをもたせる

歴史 +α

見開きの学習内容を掘り下げて、歴史を楽しく学び、学習内容の理解を深めていくことができるコラムです。

注目

第○節の問い

節のまとめりで追究する問いを1時間の学習でも意識しながら取り組めるよう示しています。

見方・考え方

学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。

二次元コード

読み込むことでその見開きにある教科書QRコンテンツを参照することができます。見開きタイトルとセットで示しています。→本冊子P.16参照

資料活用

資料を用いた活動を示すことで、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができるコーナーです。

注目



対話的な活動など協働的な学びに関連した箇所を示しています。

小年表

この見開きのできごとが、いつ、どのような順番で起こったのかを確認できます。

3

本文・図版

十分な文字量を確保し、平易な表現を用いて、生徒の読み取りを支援しました。

丁寧な記述で学習を助ける

4

確認 表現

学習課題に対応し、本文ページの学習を確かにする問いを示しています。学習の最後に取り組むことができます。

1時間の学習をふり返る

指導と評価の一体化

知識・技能、思考・判断・表現

「確認」は知識・技能、「表現」は思考・判断・表現に対応しており、評価に活用していただくこともできます。

連携コーナー

主に小学校の学習や地理・公民とのつながりを示しています。

時代・世紀のスケール

学習している時代や世紀を、前後の時代も含めて常に確認できます。

タブレットマーク

このマークのついた教材は、二次元コードを読み込んだ先のWebページにある教科書QRコンテンツで、学習を深めることができます。→本冊子P.16参照

問いを解決し、学びをふり返るまとめ・ふり返りページ

まとめ・ふり返りページでは、習得した知識を確認した後、「編(章)の問い」に答え、「時代の特色」を考える活動を行います。また、ポートフォリオを用いて学習をふり返ることで、学びの自己調整ができるようになっています。

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返りページ

評価

指導と評価の一体化

観点ごとに活動を整理

まとめ・ふり返りページでは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」それぞれの評価の観点に沿って活動を整理しています。

●第2～6編の各編(章)の「知識」の問い

いつ何があった? では年表を、どこで何があった? では地図を確認しながら、できごとなどを穴埋め形式の問いに答える形に統一しています。

注目

年表と地図の連携

どこで何があった? の地図を使った穴埋め問題は、上の年表のできごとから解答を選択させることで、この時代で学んだことを時間軸と空間軸の両面で確認することができます。

注目

問いの構造を生かす

「編(章)の問い」に答えるにあたって、これまで考えてきた「節の問いの答え」をもとにすることや、類型を示すことで、生徒が取り組みやすくしています。

注目

「見方・考え方」の活用

時代の特色を考察する際に、「比較」「推移」「つながり」といった適切な「見方・考え方」を働かせる活動を提案しています。

注目

思考ツールの提案

第3～6編では、時代の特色を考える活動に、様々な思考ツールを活用し、収集した情報のまとめや、それをもとにした考察の助けになるようになっています。

▶本冊子P.19参照
また、思考ツールを端末上で操作していただけるコンテンツをWebサイトで公開しています。



サンプルはこちら

生徒が学習のふり返りをするだけでなく、教師はどのように評価をすればよいか、わかりやすい構成になっています。



1 知識の確認

単元で学習した内容について、年表や地図を活用しながら知識を整理するとともに、知識を定着させることができます。

知識を評価する

2 「編(章)の問い」に答える活動

各時代のまとめとして、まず、各「節の問い」について考えたことをもとに、「編(章)の問い」の答えをまとめる活動に取り組むことができます。

思考・判断・表現を評価する

3 「時代の特色」を考える活動

さらに、「時代の特色」を考える活動では、思考ツールの提案や、いくつかのステップに分けた活動を提示することで、活動の流れが見えやすくなっています。

思考・判断・表現を評価する

4 学習のふり返り

最後に単元の学習をふり返る活動を設定しています。自らの学びを自己調整したり、変容を見取ったりすることができます。

主体的に学習に取り組む態度を評価する

見方・考え方を働かせた学習を実現する工夫

第1編では、「**歴史的な見方・考え方**」とは何かを、その活用の仕方とともにわかりやすく解説しています。第2編以降の学習では、「歴史的な見方・考え方」を問いの解決の道しるべとしながら学習を進める**一貫した構成**になっています。

歴史学習のはじめに「歴史的な見方・考え方」を丁寧に

歴史学習の導入部にあたる第1編「私たちと歴史」第1節「歴史のとらえ方」では、**小学校で学んだヒト・モノ・コトを生かした活動**を通じて、「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習の仕方を学ぶことができます。

注目! **活動を通して「歴史的な見方・考え方」を学ぶ**

教科書の紙面上部では、「歴史的な見方・考え方」を体験的に学ぶことができる活動「**トライ**」を提案しています。



ゲームをはじめとする活動を通して、生徒が興味・関心をもちながら「歴史的な見方・考え方」を学ぶことができるような紙面にしました。

注目! **「歴史的な見方・考え方」をわかりやすく**

「歴史的な見方・考え方」を、「時系列」「推移」「比較」「つながり」の4つの視点や方法に整理して丁寧に解説しています。

① トライ 歴史的な見方・考え方を使ってほかの人物や文化財、できごととの関係を考えよう

STEP 1 P.8~9のゲームで使ったカードにえがかれた人物や文化財、できごとと関係があると思うカードを採りましょう。その際、右の例のふき出しに示されたような視点に着目すると、つながれるカードは変わるか試してみましょう。

うら

1378年 足利義満が室町に幕府を移す

1397年 足利義満が金閣を建てる

1994年 世界遺産に

金閣はいつの時代に建てられたのかな。

ほかのカードのおもて

時系列 引きついでいる部分はどこかな。

おもて ほかのカードのおもて

比較 銀閣との共通点やちがいはあるかな。

つながり 金閣はどうしてつくられたのかな。

STEP 2 STEP 1で考えたことをもとに、自分が持っているカードに示された人物や文化財、できごとについて、誰かに分かれて説明し合います。また、その人物や文化財、できごとがどのような特色をもっているか自分なりの考えを発表しましょう。

スキル UP **相手に伝える説明のしかた**

自分の考えを説明するときは、どのような説明をすれば、聞いている人が理解しやすいのか、考えるようにしましょう。何を言いたいのか、ポイントを最初に説明して、気づいたことだけでなく、その理由などを付け加えて話しましょう。

私は、金閣について考えてみました。金閣は室町幕府3代将軍足利義満が、出家した後、別荘として1397年に建てました。一番下は寝殿造、一番上は禅宗様という建築様式が用いられています。公家と武家の文化が組み合わされているのが特色だと思いました。

私は、源頼朝について考えてみました。1180年に源平の内乱が起こり、1185年に源氏が平氏をほろぼしました。1192年に頼朝は、武士の総大将として征夷大将軍に任命された。こうして鎌倉幕府が成立しました。頼朝は、権力をにぎっただけではなく、朝廷の貴族とはちがう新しい政治を始めた点で時代を大きく変えた人物であるといえると思います。

まどかさんは、歴史に関わる人物・文化財・できごとのうち、文化財について考えていますね。人物を取り上げた人はいますか。

② 「歴史的な見方・考え方」とは?

学習課題 歴史事象(人物・文化財・できごと)の関連や特色をとらえるには、どうしたらよいのでしょうか。

歴史的な見方・考え方 この教科書では、時系列・推移・比較・つながりといった四つの視点や方法を使って学習を進めています。これらは、「歴史的な見方・考え方」とよばれるものです。歴史を考察し、理解するための手立ての一つとして、活用していきましょう。

時系列

歴史には時間の流れがあります。それぞれのできごとが、どの時期にどんな順序で起こったかに着目して「時系列」でとらえることは、歴史学習の基本として大切なことです。

いつの人物/文化財かな。

推移

ものごとは、時とともに移り変わっていきます。この移り変わりのことを「推移」といいます。推移に着目すると、ものごとがどのように変化したか、あるいは変わることなく継続したのかなどに気づくことができます。

どのように展開、変化、継続していったのかな。

比較

二つ以上のものを比べることを「比較」といいます。ものごとどうしを比較して、たがいのちがいや似ている点に着目すると、それぞれの特色を明らかにすることができます。

異なる点、共通点、特色は何か。

つながり

歴史上のできごとは、たがいにつながり合っています。「つながり」に着目することで、あるできごとの背景や原因、結果や影響などを考えていくことができます。また、現在の「つながり」に着目すると、過去の歴史上のできごとと現代の私たちや生活のかかわりに気づくことができます。

どのような影響をおよぼしたかな。

P.10-11

② 「歴史的な見方・考え方」とは?

中学校の歴史学習を始めよう 歴史の学習の目的は、昔のできごとを覚えるだけではありません。私たちの先人が、どのようにあゆんできたのか、日本の歴史の大きな流れを理解し、説明できるようにしましょう。そのためにも、日本の歴史を世界の歴史と関連づけることや、さまざまな角度から疑問をもつようすることが大切です。地図帳や統計などの資料も有効に活用しながら、学習に取り組んでいきましょう。

各時代の学習で一貫した「見方・考え方」の活用

第2~6編の通史学習では、導入ページ、本文ページ、まとめ・ふり返しページのそれぞれで働かせる主な「歴史的な見方・考え方」の例を示しています。各時代で「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習を繰り返すことで、生徒の主体的・対話的で深い学びの支援を図りました。

導入ページ

トライ 年表から「近代(前半)」という時代を見通そう

●見方・考え方
時系列 推移

年表を読み取り、話し合しましょう。

- 小学校で学んだ人物は、いつぐらいに登場しているか。
- 政治、社会、外交、文化の面で、いつ、どのようなことが起こっているか。
- 世界ではどのようなことが起こっているか。

P.156 第5編第1章 学習のはじめに「トライ」

本文ページ

学習課題 なぜ、日本はこの時期に条約改正を実現することができたのでしょうか。

●見方・考え方
つながり

日本が条約改正に成功した時期と、東アジアをめぐる列強の動きに着目しましょう。

P.196 第5編第1章第5節 ①列強の動向とアジア「学習課題」と「見方・考え方」

まとめ・ふり返しページ

「近代(前半)」の特色をさぐる

「近代(前半)」にはどのような特色があるか考えましょう。

●見方・考え方
つながり

P.213 第5編第1章 まとめとふり返し「近代(前半)」の特色をさぐる